

中山間地域における地域社会の存立条件とその歴史的転換に関する研究

農林生産学科 教授

伊藤 康宏

目 的

本研究は雲南地域を対象に地域社会の存立条件とその歴史的転換過程を明らかにすることを課題とする。具体的には19世紀末以降、近現代の歴史的転換期に着目し、雲南地域社会が遭遇した存立の危機(認識)とその克服過程を歴史的に解明することにある。とくに地域の基幹産業であった鑛製鉄業が衰退した19世紀末から20世紀初めに注目し、存立の危機(認識)とその克服過程を示した「郡是」「村是」(郡村の方針、そこで奨励された木炭業)等の史料収集・分析を通して取組課題を明らかにしていく。

研究成果

調査方法として関係史料の『島根県農会報』(近代の農業技術改良・普及を担った島根県農会の機関誌)を対象に関連記事検索(「飯石郡」等をキーワードに)を行い、データベースを作成した。合わせて雲南地域における関係史料の調査・収集を行い、史料リスト(解題)を作成した。以下はその概要を取りまとめる。なお、文末掲載の表1, 2は島根県(飯石郡)の木炭生産の位置を示している。

I. 近代木炭業史(主な先行研究): ①全国燃料会館日本木炭史編纂委員会編『日本木炭史』(全国燃料会館, 1960年), ②林業発達史調査会編『日本林業発達史: 明治以降の展開過程』(林野庁, 1960年), ③赤羽武『山村経済の解体と再編-木炭生産の構造とその展開過程から-』(林業調査会, 1970年), ④油木兵吉郎『島根県重要物産の研究』(1930年), ⑤島根木炭史編集委員会編『島根の木炭産業史』(島根県木炭協会, 1982年), ⑥柳浦文夫『島根の山林: 島根県林業の特殊構造』(今井書店, 1971年), ⑦相良英輔「島根県における木炭業の展開」(『島根史学会会報』28, 1995年), ⑧高橋淳・中川沙智「近代期の神奈川県津久井郡青根村における木炭生産と流通」(『歴史地理学野外研究』16, 2014年)等

II. 島根県・飯石郡自治体史誌(近代勸業・木炭業奨励の章節項抽出): ①『新修島根県史 通史編2 近代』(1967年)「第2章 近代社会の成立 七 林業と木炭 (一) 林業の発展, (二) 木炭の改良(飯石郡の改良木炭)」, ②『赤来町史』(1972年)「第二編 赤来町の歴史 第四章 明治大正期の政治と産業 第四節 産業と経済(林業, 製炭と鈔)」, ③『頓原町誌 歴史』(2004年)「第一編 歴史 第5章 近現代 第四節 産業 4 木炭 炭焼き」, ④『掛合町誌』(1984年)「第五章 近代の掛合地域 三 農林業の発展 3 製炭と造林(日森式炭がま, 大正末地区木炭改良組合結成<文末に荷票資料掲載>)」等

III. 飯石郡村関連史料: ①『飯石郡治一斑』(1903年, 国立国会図書館近代デジタルライブラリー, 以下*1と記す), ②『島根県飯石郡農事調査報告書(総論, 経済, 参考, 村是)』(来島村1903年刊, 掛合村1904年刊, 松笠村1910年刊, 頓原村1912年刊, 島根県立図書館蔵, 以下*2と記す), ③『市町村是(来島村是)』(市町村雑誌社, 1903年刊*1), ④『掛合村是』(1914年刊*1), ⑤『飯石郡産業計画』(1918年刊*2)「石栗郡長, 飯石郡産業調査会開設, 産業計画案策定, 普通農事, 林業, 畜産業, 蚕絲業他, 第二, 林業 方針(方法ノ改善, 普及), 林野利用, 林業経営(木炭製造方法ノ改良ニ関シテハ県教師ノ巡回指導, 木炭伝習所ヲ開キ職工ノ養成), 共同事業(木炭ノ同業組合ヲ設置奨励, 製炭方法ニ関スル実地指導, 生産品ノ統一検査, 生産品ノ共同販売), 林業知識」, ⑥『優良村の事蹟(飯石郡来島村)』(島根県内務部, 1929年刊*2, 1925年に内務省から優良村に選奨), ⑦『飯石郡之実業』第1号(飯石郡役所, 1911年6月刊*1)「(飯石郡技手・高尾撲次郎)製炭事業について」, 『同』第4号(1912年2月刊*2)「(同高尾林業技手)郡立木炭伝習所概況」等

IV. 林業・木炭業関連史料：①『木炭業経営書』（海潮村役場，1913年刊*1，黒川愛之助草稿印刷，全34頁），②「島根県の出荷団体（木炭業抜粋）」『最近重要農政資料 第十輯』島根県農会，1927年2月刊*2，「一，優良なる出荷団体の経営状況（3団体），6.大原郡海潮村第一部製炭販売同盟会（1924年9月設立），9.飯石郡東須佐村木炭出荷組合（1926年3月設立），13.安濃郡川合村木炭改良組合（1924年5月設立），二，島根県における出荷団体の概況（19団体），八東郡1，大原郡9，飯石郡5，安濃郡1，美濃郡2，鹿足郡1」，③『島根県山林会報』第9号（1918年1月刊*2）所収記事「（大原郡林業技手・蘆田正治）海潮村に於ける改良木炭製造法」等，『島根県農会報 臨時増刊』「島根県飯石郡来島村農事調査報告書」（1903年2月刊*2）等，『山陰新聞』（製炭法伝習会広告・伝習生徒募集1886.5.2）等

社会への貢献

「島根県農会報」記事検索・データベースの作成と雲南地域における関係史料リスト（解題）作成（研究室のホームページ掲載予定）は関係『自治体史誌』（近代の郡村是と産業経済，とくに木炭業の展開）の補足資料となる。これによって同地域の地域資源（歴史文化資源）の再発見とその価値の維持・継承活動（活性化）への貢献が期待される。

次年度に向けた検討状況

引き続き20世紀雲南地域の木炭業盛衰過程に関する関連史料の調査収集と関係者への聞き取り調査を行い，地域の基幹的な産業であった木炭業の実像を明らかにし，2年間の取りまとめを行う。

公表論文

2015年度学部研究報告投稿予定

学会発表等

1. 飯南第1回報告会 2014年11月9日（ポスター発表）
2. 雲南第1回報告会 2015年2月1日

受賞等

なし

外部資金

なし

表1 県別木炭生産量の推移（上位3県）

県別/年次	1914年	1926年	増加率
岩手県	24,123,992	42,964,667	1.8
島根県	13,072,000	27,233,000	2.1
高知県	9,857,016	19,060,801	1.9
合計	362,700,275	498,094,630	1.4

農林省山林局『本邦木炭生産並移動状況調査書』（1930年，近代デジタル）全国計北海道除く

表2 島根県の木炭生産高（上位3郡）

1931年	生産量(貫)	生産額(円)
島根県計	17,892,928	3,420,109
那賀郡	2,612,660	480,838
美濃郡	2,643,835	563,278
飯石郡	3,714,270	604,099

『第4回島根県市町村別統計書』（1933年）



『掛合町誌』（1984年）p. 369